

第61回 歴史地理学会大会・総会プログラム

1. 期 日：2018年5月26日（土）・27日（日）および28日（月・巡検）
2. 会 場：秋田大学教育文化学部 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
交 通：JR秋田駅東口より北東へ徒歩12分。あるいは、秋田駅西口バスターミナル12番線の手形山大学病院線（約30分に1本）乗車，約5分で秋田大学前到着。
教育文化学部3号館，懇親会会場の場所については，後掲の秋田大学「手形地区施設配置図」をご覧ください。

3. 日 程：5月26日（土）
10：00～12：00 公開講演会（教育文化学部3号館342教室）
12：10～13：00 評 議 員 会（教育文化学部3号館318教室）
13：10～13：50 総 会（教育文化学部3号館344教室）
14：00～17：00 研 究 発 表 [自由論題]（教育文化学部3号館342・344教室）
17：30～19：00 懇 親 会（手形キャンパス大学会館イベントホール）
5月27日（日）
9：30～16：00 研究発表会[共同課題シンポジウム・自由論題]
(教育文化学部3号館342・344教室)
5月28日（月）
8：00～17：00 巡 検（男鹿市若美町）

4. 公開講演会

演 題：麻生正秋氏（あきた郷土芸能推進協議会事務局長，秋田地理学会会員）
『「北前のうた」，伝わって「秋田民謡」誕生』
篠原秀一氏（秋田大）『秋田における近代水産業の変転』
会 場：秋田大学教育文化学部3号館342教室
参加費：無 料

5. 研究発表会

自由論題および共同課題シンポジウム「海からの歴史地理」
会 場：秋田大学教育文化学部3号館342教室または344教室
大会参加費：1,000円（当日，大会受付で資料集と引き換えにお支払いください）。

6. 懇親会

会 場：秋田大学手形キャンパス大学会館イベントホール（発表会場から徒歩5分）
会 費：4,000円。ただし学生会員は3,000円（当日，大会受付にてお支払いください）。
秋田の郷土料理・地酒などを取りそろえるようにいたします。

7. 昼 食

26日（土）は大学会館生協食堂が11：30～13：30，売店が11：30～14：00まで営業しています。
しかし，27日（日）は営業いたしません。学内発表会場から最寄りのコンビニまでは300mほど離れています。

8. 巡 検

テーマ：「滝ノ頭湧泉と長根堰の地理的・歴史的価値」（男鹿市若美町）

集 合：5月28日（月） 8時00分，JR秋田駅東口（参加者には集合地点地図を配布）

コース：（中型バスおよび徒歩により移動します。昼食は持参してください）

秋田駅（集合）→ 男鹿市ジオパーク学習センター（旧若美町役場）→ 滝ノ頭湧泉→
穴堰跡 → 昼食（男鹿市ジオパークセンター）→ 樽沢（長根堰の洗場）～渡部の長根
堰（流し掘り工法による開削）→ 渡部（渡部斧松居宅跡と渡部神社）→ 潟端（流し掘り工法
による造成新地）→ 野石（男鹿市若美ふるさと資料館）→秋田駅（17時解散）
（進行によっては午後の観察ポイントを一部省略します）

案内者：栗山知士（秋田地理学会会員）・篠原秀一（秋田大）

参加費：バス代，資料館入館料等を併せて約2000円が必要です。

使用地形図：2万5千分の1地形図「寒風山」「大瀧」

参加定員：最大25名，最少5名

申し込み方法：5月11日（金）午後5時までに，お名前，所属，住所，携帯電話番号を明記のうえ，電子
メールまたは葉書にて下記あてお申し込みください。期間厳守をお願いいたしますが，参
加定員に達した時点で受付を終了させていただきます。受付できなかった場合には，電子
メールまたは葉書にて御連絡申し上げます。

電子メール：shinoshu@ed.akita-u.ac.jp（秋田大学教育文化学部 篠原秀一あて）

郵便宛先：〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部 篠原秀一あて

9. 宿泊情報

秋田駅の周辺，あるいは県庁・市役所の周辺に多数のビジネスホテルがあります。お早めのご予約をお願いいたします。

10. 大会開催中（5月26日～27日）の緊急連絡先

秋田大学教育文化学部篠原秀一研究室 電話：018-889-2663

〈大会実行委員会〉

篠原秀一（委員長，秋田大），渡辺英夫（秋田大），林 武司（秋田大）

研究発表会

◇5月26日 土曜日

●第1会場【自由論題】*は登壇者

342教室

〔座長：山元貴継〕

101（14：00－14：30）駒木野智寛（岩手大・非）：縄文時代中期後半の秋田県域における集落遺跡の地理学的研究

102（14：30－15：00）渋谷鎮明*（中部大）・浦山隆一（富山国際大）・

崔元碩（慶尚大）：沖縄の風水思想における気脈概念と山の認識－『真喜屋稲嶺風水日記』の記載を中心に

〔座長：渡辺理絵〕

103（15：00－15：30）光成由佳（名古屋市役所）：近世城下絵図からみる町人地の人々
－松本城下町を事例に－

104（15：30－16：00）松尾容孝（専修大）：村絵図の種類・目的と地域性

〔座長：渡辺康代〕

105（16：00－16：30）沢田優希（日本年金機構）：祭礼と都市の空間構造
－豊橋鬼祭りの担い手－

106 (16:30-17:00) 八木康幸 (関西学院大): 1950・60年代における男鹿半島の観光開発と民俗行事ナマハゲの文化資源化

●第2会場【自由論題】*は登壇者

344教室

〔座長: 山下琢巳〕

201 (14:00-14:30) 平井松午 (徳島大): 幕末期における蝦夷地警衛と陣屋の立地

202 (14:30-15:00) 伊藤大生 (筑波大・院): 明治期九頭竜川下流域における堤防整備と住民による築造反対運動—水害予防組合設立前史—

〔座長: 河野敬一〕

203 (15:00-15:30) 原 遼平 (筑波大・院): 鉄道の新設・廃止に伴う門前町の空間的変容—島根県出雲市大社町を事例に—

204 (15:30-16:00) 関戸明子 (群馬大): 明治前期の東京における温泉の流行

〔座長: 椿 真智子〕

205 (16:00-16:30) 平川 亨 (明治大・院): ハワイ日本人移民の時期区分からみる移動と定着の実態—ハワイ島コナ地域の事例—

206 (16:30-17:00) 矢ヶ崎典隆 (日本大): アメリカ合衆国ユタ州・アイダホ州におけるテンサイ糖産業と移民

◇5月27日 日曜日

●第1会場 シンポジウム【海からの歴史地理】

342教室

オーガナイザー: 河原典史 (立命館大)・井村博宣 (日本大)

9:30-9:40 河原典史「主旨説明」

9:40-10:40 第1セッション: 近世～近代における漁場利用の変化と人々の移動

S101 末田智樹 (中部大)「近世西日本近海における鯨組の出漁と漁場利用の変化」

S102 服部垂由未 (愛知県立大)「浮魚資源の変動にともなう漁業従事者の移動」

コメント: 東 幸代 (滋賀県立大)

10:50-11:50 第2セッション: 近世～近代における海運とその変化

S103 阿部志朗 (浜田高)「近世～近代に生産された石見地方の窯業製品の分布からみた日本海海運」

S104 三木理史 (奈良大)「『裏日本』論と東北論再考—海からみた近代東北地方の港湾と鉄道—」

コメント: 南出真助 (追手門学院大)

13:00-14:00 第3セッション: 津波被災史研究と防災・減災への活用

S105 鎌滝孝信 (秋田大)「北東北日本海沿岸域における津波堆積物研究から推定される津波履歴」

S106 林紀代美 (金沢大)「漁業地域での津波に関する防災活動・学びの展開と課題」

コメント: 青木賢人 (金沢大)

14:10-15:10 第4セッション: 近世～近代における海浜の活用

S107 橋村 修 (東京学芸大)「近世以降の海浜の多様な利用—「遊漁」「海の名所」をめぐる歴史展開—」

S108 品田光春 (日本大・非)「近代日本の油田開発における海浜・海底」

コメント: 磯部 作 (放送大・客員)

15:20-15:50 総合討論

15:50-16:00 井村博宣「総括」

●第2会場【自由論題】*は登壇者

344教室

<午前の部>

〔座長: 原 淳一郎〕

207 (9:30-10:00) 上杉和央 (京都府立大): 名所岩国の成立と変化

208 (10:00-10:30): 小野寺淳* (茨城大)・塚本麻文・石井智子 (銚田一高)・永山未沙希 (神戸市立博物館)・増山聖子 (奈良工業高専・非): 明治期の学校用地図に掲載された酒井捨彦の地図

〔座長：川口 洋〕

209 (10:30-11:00) 鈴木 允 (横浜国立大)：大正・昭和初期の山村地域からの出寄留者の職業に関する考察—愛知県東加茂郡賀茂村『寄留届綴』の分析から—

210 (11:00-11:30) 溝口常俊 (名古屋大・名誉)：秋田県北部米代川流域の寺院資料による災害史
<午後の部>

〔座長：山本 充〕

211 (13:00-13:30) 東 昇 (京都府立大)：近代京都御猟場から雲ヶ畑猟区への変遷と実態

212 (13:30-14:00) 村山 聡 (香川大)：中欧ドイツの有機経済と租税国家

—18世紀後半ヘッセン・カッセルの「地誌」より—

〔座長：轟 博志〕

213 (14:00-14:30) 山元貴継 (中部大)：日本統治時代における韓国済州島・西帰浦をめぐる日本人の進出と撤退

214 (14:30-15:00) 天野宏司 (駿河台大)：戦前期日本植民地下における電気事業

—概略と資料的検討—



秋田大学「手形地区施設配置図」